

広島市スポーツ振興計画の見直しの視点等について

1 見直しの視点

平成27年度広島市スポーツ振興計画見直し検討部会における審議結果を踏まえ、次の視点により計画見直し案（たたき台）を作成した。

(1) 健康寿命の延伸の必要性

平成22年の広島市の男性の平均寿命は79.93年、健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）は69.96年となっており、その差は、9.97年となっている。同様に、女性では、14.67年となっている。なお、全国の平均寿命と健康寿命の差は、男性が9.13年、女性が12.68年となっている。

広島市の平均寿命は、男女ともに全国よりも長く、健康寿命は、男女ともに短くなっており、結果として、広島市の平均寿命と健康寿命の差は、全国よりも大きくなっている。

こうした状況を広く市民に周知し、市民一人一人が、生涯を通じて心身ともに健康で自立した生活を送ることができるよう、スポーツ・レクリエーションに親しむことを習慣づける取組が必要となる。

現行計画において、既に健康寿命の延伸に寄与する取組を実施しているが、今後は、健康福祉部局等と連携して、日常生活において健康増進につながるラジオ体操の普及・促進や自転車利用の促進を図るなど、これまで以上に健康寿命の延伸につながる取組を効率的かつ効果的に推進する。

平成22年の広島市の平均寿命と健康寿命

| 区分 | 男女別 | 平均寿命(A) | 健康寿命(B) | (A)-(B) |
|-----|-----|---------|---------|---------|
| 広島市 | 男性 | 79.93年 | 69.96年 | 9.97年 |
| | 女性 | 86.86年 | 72.19年 | 14.67年 |
| 全国 | 男性 | 79.55年 | 70.42年 | 9.13年 |
| | 女性 | 86.30年 | 73.62年 | 12.68年 |

(2) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催を契機としたスポーツに対する市民意識の高揚

この計画の目標年度が、折りしも、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催年に当たることから、同大会の開催を契機として、出場国・地域の事前合宿等の誘致を行い、スポーツに対する市民意識の高揚を図るとともに、同大会終了後も継続的にスポーツに親しむ市民が増加する取組やジュニア選手の競技力向上への意識高揚につながる取組などを積極的に実施し、広島市のスポーツ振興を図る。

2 数値目標の見直し

(1) 上記1の取組を踏まえた数値目標1の見直し

平成26年度の進捗状況は51.4%であり、現行の数値目標の65%と比べて10ポイント以上の差があるが、平成23年度以降増加傾向にある。

今後、上記1の取組を実施することにより、健康寿命の延伸を図るとともに、スポーツに親しむ市民を増加させる必要があることから、市民の意識喚起も含めて数値目標を70%に引き上げることとする。

(2) 現行計画の数値目標が既に達成されたこと等による数値目標の見直し

ア 数値目標 2

既に現行計画の数値目標を達成しているため、次のとおり数値目標の見直しを行う。

(7) 広島市スポーツ振興計画策定時（平成23年3月）の指標の考え方

平成23年3月、本市は「広島市スポーツ振興計画」策定時、学校における体育・スポーツの充実を図る指標として、文部科学省が、国民の体力・運動能力の現状を明らかにすることを目的として実施している「新体力テスト」の結果を用いることとし、具体的な数値目標は、広島市の平均値が全国の値以上となる種目の割合を50%以上とした。

(4) 今回の見直しにおける目標設定の考え方

平成24年3月、国が「スポーツ基本計画」を策定し、幼児期からの子どもの体力向上策の推進に当たっては、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査（対象：小学校第5学年及び中学校第2学年の全児童生徒）」に基づく体力向上のための取組の検証改善サイクルの確立を促進するよう定めたことから、今回の見直しにおいて、学校における体育・スポーツの充実を図る指標として、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果を用いることとする。

ただし、高等学校においては、当該調査が行われていないため、これまでどおり「新体力テスト」の結果を用いることとする。

具体的な数値目標については、小学校及び中学校は、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果の過去最高値をそれぞれ1種目上回ることを目標として、「広島市の平均値が全国の値を上回る種目の割合を小学校7/8種目以上、中学校7/9種目以上」とする。また、高等学校（高等学校第2学年）は、「新体力テスト」の結果の過去最高値を上回ることを目標として、「広島市の平均値が全国の値を上回る種目の割合を7/9種目以上」とする。

なお、現行の数値目標は百分率で表記しているが、より分かりやすくするため、今後は種目数による表記に変更することとする。

イ 数値目標 3

現行計画の数値目標は、国民体育大会に出場する「広島県選手」を広島県代表選手、「広島市選手」を広島市在住選手のみカウントしていたため、「広島市選手」に「ふるさと選手」は含めていなかった。

「広島県選手」の中には広島市をふるさと登録する「ふるさと選手」が多数存在するため、数値目標の「広島市選手」に「ふるさと選手」を加えた算出方法に変更することとする。

「ふるさと選手」を含めた場合、平成26年度の数値は57.7%となり、現行の数値目標の50%を超過することから、数値目標を65%に引き上げることとする。